

地方議員の系列化過程

——新潟第3区・田中角栄越山会を中心に——

星 明

はじめに

この小論は、衆議院新潟第3区選出の保守系代議士によって、3区33市町村の市町村議員、県会議員、首長がどのように系列化されているか、そして現在起こっている新たな系列化過程はどのようなものかをみたものである。

衆知のように、新潟第3区は田中角栄元首相の選挙区である。田中が、昭和60年2月27日、病に倒れたことを直接の契機として、3区政界ではさまざまな動きがみられる。たとえば、新たに国会議員への立候補を目指す人の出現、現自民党代議士3人のポスト田中の主導権争いの激化、田中後援会新潟県越山会の組織内部の歪みの顕在化、越山会県会議員の大量落選（13人中5人落選）等々である。

昨年（昭和61年）7月の衆参同日選挙から今年4月の統一地方選挙まで、まさに選挙の季節であったが、ここでは、これらの選挙から国会議員による地方議員の系列化に関するデータを取りあげた。経験的かつ具体的なデータの収集は、当該地域での聴き取りおよび地元紙「新潟日報」（中越版）である。

I 新潟第3区政界の概要

昨年（昭和61年）7月の衆参同日選挙において自民党は圧勝した。新潟3区においても自民党は39.2%、田中角栄の40.0%を合わせると79.2%の得票率があった。前回（昭和58年）は自民党28.8%、田中角栄46.6%で75.4%であった。自民党は、現在（昭和62年8月）、この定数5人の3区に3人の代議士もっている。村山達雄（宮沢派）、渡辺秀央（中曽根派）、桜井新（安倍派）の3人である。残り2人は田中角栄と坂上富男（社会党）である。

また、今回（昭和62年4月）の県議選では、県全体で自民党の得票率は50.6%、前回（昭和58年）は54.0%であった。3.4%の低下であるが、全国平均の44.7%に比べると高い。3区内における7市5郡の自民党の得票率は47.2%であった。県議の定員63人のうち、3区の定員は18人である。その党派別構成は自民党8人、社会党5人、県政会1人、無所属4人である。さらに、保守系代議士による系列閥をみると、田中角栄・越山会8人、渡辺秀央・秀央会2人、村山達雄・山紫会1人、桜井新・一新会1人である。3区内の市議定数は186人であり、その内

第1表 衆院選新潟第3区各候補者の市町村別得票数

【3区】	村山達雄 (自前)	西川 攻 (無新)	坂上富男 (社新)	渡辺秀央 (自前)	田中角栄 (無前)	丸山久明 (共新)	桜井 新 (自前)
長岡市	17,788②	634	17,139③	12,758④	34,970①	4,416	9,854⑤
三条市	3,695⑤	131	9,434③	10,319②	16,344①	1,948	4,316④
柏崎市	4,314③	2,035	9,170②	3,765⑤	23,429①	2,249	3,876④
小千谷市	3,235④	96	5,332②	1,975⑤	11,161①	766	4,188③
加茂市	2,822③	79	4,300②	2,386④	7,768①	762	1,745⑤
見附市	3,356③	116	2,837④	5,682②	9,692①	930	2,459⑤
栃尾市	1,926③	29	1,097④	6,882②	7,800①	384	645⑤
南蒲原郡	3,206⑤	92	4,802②	4,745③	10,362①	781	4,597④
田上町	1,015③	24	1,350②	937⑤	2,419①	254	972④
下田村	582⑤	20	1,117④	1,485③	2,790①	185	1,701②
栄町	616⑤	21	1,415②	1,193③	2,380①	191	954④
中之島村	993③	27	920⑤	1,130②	2,773①	151	970④
三島郡	4,397④	152	4,897③	5,451②	15,493①	726	3,338⑤
越路町	683⑤	45	1,138③	1,326②	5,081①	199	779④
三島町	575④	19	620③	704②	1,922①	79	374⑤
与板町	791②	15	739④	743③	1,823①	84	423⑤
和島村	418④	15	745②	393⑤	1,382①	41	421③
出雲崎町	1,071②	27	555④	529⑤	1,798①	56	626③
寺泊町	859④	31	1,100③	1,756②	3,487①	267	715⑤
古志郡	246②	3	159⑤	227③	1,302①	16	226④
山古志村	246②	3	159⑤	227③	1,302①	16	226④
北魚沼郡	1,448⑤	104	4,617③	4,359④	14,743①	856	9,358②
川口町	193⑤	28	562③	522④	2,067①	68	770②
堀之内町	273⑤	29	932③	751④	2,760①	190	1,812②
小出町	438⑤	17	1,137③	698④	2,464②	245	3,148①
湯之谷村	178⑤	13	517③	370④	1,808①	96	1,077②
広神村	213⑤	12	877④	979③	2,697①	131	1,474②
守門村	124⑤	3	514④	521③	1,840①	113	996②
入広瀬村	29⑤	2	78④	518②	1,107①	13	81③
南魚沼郡	2,533⑤	108	6,846③	3,558④	15,114②	1,722	16,596①
湯沢町	387⑤	22	735③	411④	2,268①	226	1,500②
塩沢町	935⑤	34	2,050③	1,533④	4,166②	448	4,265①
六日町	914⑤	37	2,783③	1,080④	5,165②	750	6,882①
大和町	297	15	1,278③	534④	3,515②	298⑤	3,949①
刈羽郡	726	179	2,099②	1,447③	10,884①	776⑤	991④
高柳町	120⑤	17	335②	206③	1,631①	85	149④
小国町	304	43	860③	872②	2,772①	446④	439⑤
刈羽村	199⑤	47	457②	283③	2,082①	86	279④
西山町	103⑤	72	447②	86	4,399①	159③	124④
3区計	49,692⑤	3,758	72,729②	63,554③	179,062①	16,332	62,189④
得票率(%)	11.11	0.84	16.26	14.21	40.03	3.65	13.90

昭和61年7月6日執行 総選挙投票率 82.33%, ○印の数字は各市町村での得票順位を示す。

「朝日新聞」(新潟版) 昭和61年7月8日付。

第2表 新潟県議選各候補者の得票数（3区内）

選挙区	得票数	候補者名	党派	系列派閥	備考
長岡・古志区 (定数4)	当 22,485	星野伊佐夫 47	自現	越山会	越山会前青年部長, 越山会 県議団長, 4期
	当 21,024	目黒吉之助 53	社元		
	当 19,530	中川良一 57	社現	山紫会 秀央会	3期
	当 14,048	細貝幸也 60	自現		4期
	13,002	上原 仁 54	自現		
	4,949	大塚君子 70	共新		
三条市 (定数2)	当 17,942	太平 武 65	社元	秀央会	4期
	当 13,288	滝口恵介 49	無現		2期
	12,248	嵐 嘉明 51	自現	越山会	越山会前県議団長
	2,512	酒井次男 67	共新		
柏崎 (定数2)	当 19,290	阪田源一 55	社新	越山会	1期
	当 16,986	東山英機 42	自現		越山会
	16,587	西川 勉 60	自現		
小千谷市 (定数1)	当 13,528	広井忠男 43	自現	越山会	4期
	13,037	大淵絹子 42	無新		
加茂市 (定数1)	当 12,527	高橋誠一 44	無新	越山会	社会推薦, 1期
	9,668	菊田征治 43	自現		
見附市 (定数1)	当 12,898	大塩満雄 53	無新	越山会	見附越山前会長, 1期 見附越山会前顧問
	11,921	今井良松 71	無現		
栃尾市 (定数1)	当 13,666	馬場潤一郎 46	自現	越山会	4期
	2,360	渋谷春夫 57	共新		
南蒲 (定数1)	当 16,591	佐藤元彦 56	自新	越山会	1期
	5,924	田中敏文 35	共新		
三島 (定数1)	当 18,649	亘 太一郎 56	無現	秀央会 越山会	2期
	15,062	五十嵐淑郎 66	無現		
北魚 (定数1)	当 21,218	高橋虎夫 75	県政現	越山会 秀央会	北魚沼郡越山会長, 8期
	14,035	角屋久次 79	自現		
南魚 (定数2)	当 17,630	種村芳正 59	自新	一新会	1期 3期
	当 16,696	梅沢秀次 57	社現		
	13,792	斎藤隆景 43	自新	越山会	
刈羽 (定数1)	当 12,779	三富佳一 48	自現	越山会	越山会県議団幹事長, 3期
	3,196	細井良子 35	共新		

昭和62年4月12日執行, 新潟県会議員選挙, 投票率 74.61%「新潟日報」(中越版),
昭和62年4月13日付から作成。

第3表 新潟県議選各候補者の郡区町村別得票(3区内)

【南 蒲】	田中	佐藤				
田 上 町	1,628	3,157				
下 田 村	1,655	4,311				
栄 町	699	5,768				
中 之 島 町	1,942	3,355				
計	5,924	16,591				
【三 島】	亘	五十嵐				
越 路 町	1,301	7,985				
三 島 町	2,259	1,876				
与 板 町	2,866	1,347				
和 島 村	2,405	760				
出 雲 崎 町	2,825	1,517				
寺 泊 町	6,993	1,577				
計	18,649	15,062				
【長岡古志】	大塚	目黒	星野	細貝	上原	中川
山 古 志 村	13	211	1,243	290	195	180
計	4,949	21,024	22,485	14,048	13,002	19,530
【北 魚】	高橋	角屋				
川 口 町	2,252	1,907				
堀 之 内 町	2,865	3,890				
小 出 町	5,860	2,168				
湯 之 谷 村	2,609	1,431				
広 神 村	3,870	2,572				
守 門 村	2,517	1,466				
入 広 瀬 村	1,245	601				
計	21,218	14,035				
【南 魚】	梅沢	斎藤	種村			
湯 沢 町	1,747	1,994	1,972			
塩 沢 町	5,471	4,421	4,123			
六 日 町	7,034	4,754	6,488			
大 和 町	2,444	2,623	5,047			
計	16,696	13,792	17,630			
【刈 羽】	三富	細井				
高 柳 町	1,919	457				
小 国 町	3,496	1,598				
刈 羽 村	2,701	486				
西 山 町	4,663	655				
計	12,779	3,196				

「新潟日報」(中越版), 昭和62年4月13日付から作成。

第4表 市町村議市町村別・党派別当選者

市議會議員選挙

市名	定数	自民	社会	公明	民社	共産	無所属	合計			
		計	計	計	計	計	計	新	現	元	女
新 潟 市	52	3	10	5	3	7(1)	24(2)	6	45(3)	1	3
○ 長 岡 市	35		5	2	1	3	24(1)	11(1)	24		1
○ 三 条 市	30	10	4	2	2	2(1)	10	4	26(1)		1
○ 柏 崎 市	32		4(1)	2(1)	3	3	20	9	22(2)	1	2
○ 新 発 田 市	32		8	1	1	2(1)	20	11(1)	21		1
○ 新 津 市	32	6	6	1	1	3(2)	15	7(1)	24(1)	1	2
○ 小 千 谷 市	25	2	1	1		1	20	9	16		
○ 加 茂 市	22	1	3	1		2	15	5	17		
○ 十 日 町 市	26		1	1		2	22	5	20	1	
○ 村 上 市	22		2			2	18	3	19		
○ 燕 尾 市	20	3		2		1	14	3	17		
○ 栃 尾 市	20			1	1	1	17	4	13	3	
○ 糸 魚 川 市	24		5			1	18	10	13	1	
○ 白 根 市	24		2			1	21	5	19		
合 計	396	25	51(1)	19(1)	12	31(5)	258(3)	92(3)	296(7)	8	10

町村議會議員選挙

町村名	定数	自民	社会	公明	民社	共産	無所属	合計			
		計	計	計	計	計	計	新	現	元	女
安 田 町	20			1			19	9	11		
京ヶ瀬村	18					1	17	3	15		
黒川村	18						18	5	13		
小須戸町	18		1		1	1	15	4	13	1	
横越村	18		3			1	14	4	14		
亀田町	26		2	1		3	20	6	20		
弥彦村	18		1	1			16	1	16	1	
巻町	26		1	1		1	23	7	18	1	
黒埼町	26		1	1		2	22	5	20	1	
味方村	16					1	15	5	11		
月潟村	14						14	1	13		
○ 田上町	22	1	4			1	16	3	18	1	
○ 下田村	24		1				23	5	18	1	
○ 中之島村	20						20	5	14	1	
○ 寺泊町	22		1			2(1)	19	3(1)	19		1
○ 川口町	16					1	15	7	8	1	
○ 堀之内町	20		1			1	18	4	16		
○ 小出町	22		2				20(1)	4	16(1)	2	1
○ 湯之谷村	18						18	6	10	2	
○ 広神村	18						18	7	9	2	
○ 入広瀬村	14						14	4	10		

○湯	沢	町	20		2			1	17	4	15	1	
○高	柳	町	14						14	4	10		
○刈	羽	村	18						18	9	9		
○西	山	町	20					1	19(1)	8	10(1)	2	1
	松	代	18					1	17	7	10	1	
	大	瀧	22		3			1	18	5	17		
	中	郷	18			1			17	5	12	1	
	板	倉	20					1	19	4	16		
	能	生	22	6	2			1	13	6	15	1	
	青	梅	20						20	5	15		
	粟	島	10						10	3	7		
	新	穂	16						16	8	8		
	小	木	16		1				15	5	10	1	
	赤	泊	14						14	6	6	2	
	小	計	662	7	26	6	1	21(1)	601(2)	177(1)	462(2)	23	3

補欠選挙

岩	室	村	1						1			1	
瀧	東	村	1						1	1			
津	川	町	2						2	1		1	
山	北	町	2						2	1		1	
小	計		6						6	3		3	
合	計		668	7	26	6	1	21(1)	607(2)	180(1)	462(2)	26	3

(注) () 内は女性当選者

○印は3区内の市町村

「新潟日報」(中越版), 昭和62年4月28日付から作成。

自民党は13人(7.0%), 革新——社会・公明・民社・共産——49人(26.3%), 保守系無所属111人(59.7%), 革新系無所属13人(7.0%)である。また, 3区内の33市町村の首長は全員保守系無所属である。

以下, これからの考察のためにまず3区政治地図の資料をあげておこう(第1~6表)。

第5表 新潟県内の議員・党派別当選者数

	定数	自民	社会	公明	民社	共産	無所属
県議	63 (100.0) (65)(100.0)	39 (61.9) (49)(75.4)	17 (27.0) (10)(15.4)	1 (1.6) (1)(1.5)	1 (1.6) (1)(1.5)	1 (1.6) (1)(1.5)	4 (6.3) (3)(4.6)
市議	396 (100.0) (418)	25 (6.3) (39)	51 (12.9) (54)	19 (4.8) (20)	12 (3.0) (17)	31 (7.8) (29)	258 (65.2) (259)
町村議	668 (100.0) (699)	7 (1.0) (6)	26 (3.9) (26)	6 (0.9) (8)	1 (0.1) (1)	21 (3.1) (24)	607 (90.9) (634)
合計	1127 (100.0) (1182)	71 (6.3) (94)	94 (8.3) (90)	26 (2.3) (29)	14 (1.2) (19)	53 (4.7) (54)	869 (77.1) (896)

	現	新	元	女 性
県 議	44 (41)	16 (20)	3 (4)	0 (0)
市 議	296 (310)	92 (98)	8 (10)	10 (7)
町 村 議	462 (479)	180 (181)	26 (39)	3 (3)
合 計	802 (830)	288 (299)	37 (53)	13 (10)

(注) 表の上段数字は今回当選者数。下段のカッコ内は改選前あるいは前回当選者数。県議の社会には県民連合2人、無所属には県政会2人を含む。町村議には補選を含む。「新潟日報」(中越版), 昭和62年4月28日付。

第6表 県議選の保革得票比率(%)

	62年		58年		54年	
	保守	革新	保守	革新	保守	革新
全 県	67.2	32.8	72.5	27.5	66.5	33.5
新 潟	48.8	51.2	51.5	48.5	57.6	42.4
長 岡	52.1	47.9	62.6	37.4	53.3	46.7
上 野	52.8	47.2	73.5	26.5	58.0	42.0
三 条	55.5	44.5	63.7	36.3	48.6	51.4
柏 崎	63.5	36.5	68.5	31.5	—	—
新 発	66.7	33.3	67.2	32.8	55.5	44.5
新 津	56.8	43.2	62.5	37.5	53.5	46.5
小 千	50.9	49.1	75.1	24.9	—	—
加 茂	43.6	56.4	56.9	43.1	45.7	54.3
十 日	100	—	97.0	3.0	100	—
見 附	100	—	100	—	—	—
村 上	87.2	12.8	95.2	4.8	80.2	19.8
燕	100	—	100	—	—	—
栃 尾	85.3	14.7	86.1	13.9	—	—
糸 川	90.1	9.9	96.9	3.1	57.6	42.4
新 井	—	—	83.5	16.5	56.2	43.8
五 泉	45.2	54.8	52.2	47.8	55.8	44.2
両 津	100	—	—	—	55.4	44.6
白 根	—	—	—	—	100	—
豊 栄	47.8	52.2	47.7	52.3	—	—
北 蒲	59.5	40.5	67.0	33.0	—	—
中 蒲	64.1	35.9	67.0	33.0	70.5	29.5
西 蒲	76.2	23.8	77.2	22.8	82.1	17.9
南 蒲	73.7	26.3	92.7	7.3	57.6	42.4
東 蒲	67.2	32.8	86.3	13.7	54.8	45.2
三 島	100	—	100	—	100	—
北 魚	100	—	85.3	14.7	100	—
南 魚	65.3	34.7	—	—	—	—
中 魚	100	—	100	—	—	—
刈 羽	80.0	20.0	81.9	18.1	59.9	40.1

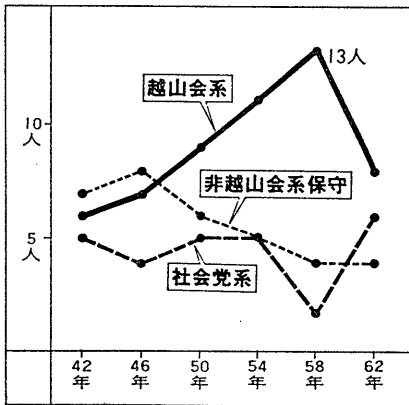
東	頸	82.6	17.4	88.7	11.3	—	—
中	頸	—	—	71.4	28.6	—	—
西	頸	—	—	85.2	14.8	—	—
岩	船	92.1	7.9	98.5	1.4	100	—
佐	渡	72.5	27.5	81.3	18.7	74.3	25.7

(注) 保・革とも得票率のないところは無投票区
 ○印が3区内の投票区
 新潟日報社、『データ'87選挙』, 昭和62年, p. 39.

II 越山会支配

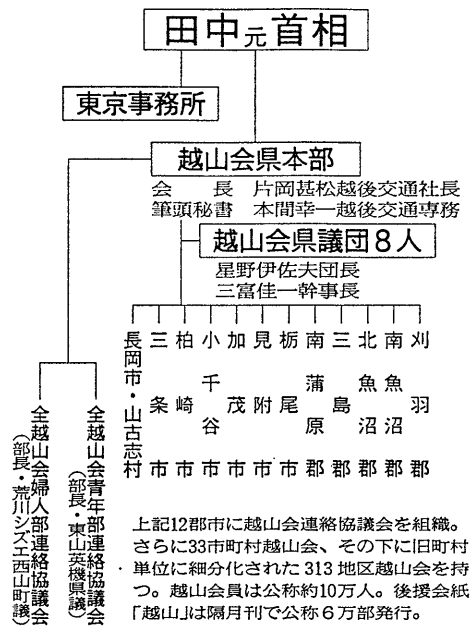
新潟3区を語るばあい、越山会に触れないわけにいかない。昭和21年、戦後2回目の第22回総選挙に田中角栄が進歩党新人候補として立候補した時に成立した越山会は、今日まで41年の歴史をもっている。現在、会員数公称約10万人である。これは3区有権者559,534人の約17.9%にあたる。そして、前回（昭和58年12月）の総選挙では田中に220,761票（得票率46.6%）、今回（昭和61年7月）は179,062票（得票率40.0%）を出した。今回の選挙で特徴的なことは、田中の40年間で17回目のこの選挙にはじめて肉親が応援にかけつけたことと、3区入りした40人近くの代議士のすべてが非創政会であったことである。県議では3区18議席中8議席を占め、落選者5人を含めた得票数は197,508票（得票率45.0%）である。過去20年間の越山会系県議数の推移はつぎのようである（第1図）。

第1図 越山会系県議員数の推移



「新潟日報」（中越版），昭和62年7月22日付。

第2図 越山会組織図



「新潟日報」（中越版），昭和62年7月22日付。

第7表 3区市町村議会の越山会系議員

	越山会系議員		61年同日選
	議員数	占有率	田中得票率
▽ 長岡市	8人	22%	35.8%
▽ 三条市	7	19	35.3
▽ 柏崎市	15	47	47.9
▽ 小千谷市	11	44	41.7
▽ 加茂市	5	21	39.1
▽ 見附市	10	45	38.6
▽ 栃尾市	10	50	41.5
▽ 南浦田上町	6	27	34.7
▽ 下田村	6	25	35.4
▽ 栄町	7	32	35.1
▽ 中之島町	9	45	39.8
三島越路町	15	68	54.9
三島町	10	56	44.7
与板町	7	39	39.4
和島村	3	17	40.4
出雲崎町	9	50	38.5
▽ 寺泊町	6	25	42.4
古志山古志村	9	64	59.7
▽ 北魚川口町	9	50	49.1
▽ 堀之内町	5	25	40.9
▽ 小出町	4	18	30.2
▽ 湯之谷村	11	61	44.5
▽ 広神村	9	45	42.2
▽ 守門村	7	39	44.7
▽ 入広瀬村	8	57	60.5
▽ 南魚湯沢町	4	20	40.8
▽ 塩沢町	6	23	31.0
▽ 六日町	10	33	29.3
▽ 大和町	8	31	35.5
▽ 刈羽高柳町	11	69	64.1
▽ 小国町	6	27	48.3
▽ 刈羽村	12	67	60.6
▽ 西山町	16	80	81.6
三区全体	279	37	40.0

(注) ▽印が昭和62年4月改選議会。

「新潟日報」(中越版), 昭和62年7月22日付から作成。

また、市町村議で279議席を有し、これは3区の37%を占めていることになる。さらに、市町村長は33人中22人を直系か系列下においている。

今回(昭和62年4月)の3区内の改選市町村議会は6市14町村であり、432の議席を目指して468人が立候補した。改選議会の越山会系の市町村議は、昭和62年4月3日現在、187人で

あり、越山会は197人の候補を立てた。他の保守系派閥では、渡辺秀央・秀央会約70人、桜井新・一新会約70人、村山達雄・山紫会約50人である。越山会は、他の派閥の3～4倍の候補者を立てることになる。これは全立候補者の43.3%にあたる。なかでも、田中の出身地刈羽郡西山町では定員20人に対して19人、同郡高柳町でも定員14人に対して13人を立てた。柏崎市、栃尾市、湯之谷村、入広瀬村、川口町、広神村でも越山会は立候補者の過半数を占めた。そして、越山会立候補者197人のうち、172人、87.3%を当選させた。昭和62年7月現在、3区33市町村議会に占める越山会系議員はつぎの通りである（第7表）。

上にみるように、田中角栄元首相の今日までの2年6カ月にわたる不在にもかかわらず、越山会は依然として3区の政界を支配している。これは衆院5人区ということを考えてみても、その支配力の強大さがわかるであろう。

しかし、中央政界においては、昭和47年以来15年間にわたって自民党の最大派閥であった田中派は、昭和62年7月4日をもって解体した。当初81人で出発し、昨年（昭和61年7月）の衆参同日選挙では自民党の派閥史上はじめて141人になった。この10数年にわたって派閥の総裁候補をもたなかったことは、派閥の本来的目的から逸脱している。もちろん、二階堂擁立劇や創政会騒動は、派内から総裁候補を出そうとする一つの動きであった。田中病氣不在は、組織体としての田中派の内部の緊張を高めた。その緊張の頂点が、昭和62年7月4日の竹下派「経世会」の発足である。田中派はこの竹下派と、これに反発する二階堂旧田中派会長系と、中立を標ぼうする小沢辰男（新潟第1区）旧田中派事務総長を中心とグループの三つに分裂した。因みに、それぞれの派閥の所属議数は竹下派が113人、二階堂系が15人、小沢グループが13人である。そして、新潟県越山会は二階堂を支持している。旧田中派議員では、新潟第2区の渡辺紘三は流動的であるが、4区の高鳥修は竹下派へ移動した。

こういった中央政界の変動と同時に、つぎにみるように第3区の地方政治においてもその地味は揺らぎつつある。

加茂市では、今年（昭和62年）4月越山会系市長に代わって村山達雄・山紫会系の太田大三郎市長が、また南蒲原郡田上町では昨年6月桜井新・一新会系の高野喜衛町長が誕生した。一新会は、すでに昭和57年11月に3区ではじめて北魚沼郡小出町で桜井宗町長を誕生させている。

つぎの第3図は、新潟日报社が、(1)昭和61年度総選挙での田中角栄の得票率、(2)市町村議会での系列議員の占有率、(3)市町村長の系列化、(4)郡市単位での系列県会議員の有無の4要素をポイント化し作成した3区における田中支配度である。

昨年（昭和61年）の衆参同日選で、田中は第3図にみるように5群の市町村は六日町を除いて議会占有率を上回る30～40%の得票率があるが、湯沢町と和島村以外はいずれも3区平均の得票率40.0%を下回っている。

越山会が強力な支配力をもつのは、1群と2群の15市町村である。支配度が最も高いのは田中の出身地である西山町である。田中得票率81.6%、町議会占有率80%である。以下、支配度

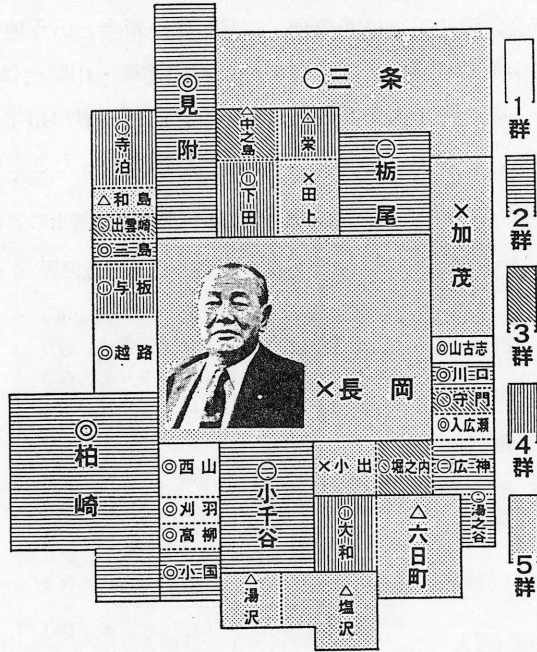
の高い地域は高柳町，刈羽村，山古志村，入広瀬村，越路町，川口町，湯之谷村，柏崎市，見附市と続く。この1群と2群の首長は全員が越山会直系（◎印）か系列（○印）である。議会占有率も小国町を除いて3区平均を大きく上回る40%以上であり，10市町村は50%を越える占有率である。

この越山会支配の構図は，3区衆院議員の勢力地図を反映している。つまり，田中支配度が相対的に低い4群，5群の市町村は村山達雄，渡辺秀央，桜井新，坂上富男らの地盤である。北部の三条市，加茂市，南蒲原郡は昭和51年初当選の渡辺秀央，61年初当選の坂上富男の地元であり，南部の南魚沼郡，北魚沼郡は55年初当選の桜井新の地元であり，3区の拠点都市長岡市は村山達雄の地盤である。

つぎに，県議選，市町村議選，市町村長選の具体的な事例から越山会支配の変化をみよう。

衆院3区内には，現在（昭和62年4月）14人の保守系県議がいるが，かれらの全員が保守系の代議士4人に系列化されている。因みに衆院1区では保守系県議11人中10人が2人の代議士の系列下にある。同様に，2区では県議10人中6人が3人の代議士に，4区では県議9人中4人が2人の代議士に系列化されている。

第3図 3区における田中支配度



(注) 「3区における田中支配度」は①61年総選挙での田中元首相得票率（第7表）②市町村議会での系列議員占有率（第7表）③市町村長の系列（地図各市町村に表記）④郡市単位での系列県会議員の有無の4要素をポイント化し，加算した。①，②は百分率をそのままポイントに。③（首長の色分け基準参照）は◎は30，○は20，△は10ポイントした。④については系列県議を持つ都市に15ポイントを加えた。

1群はポイント150以上，2群は同120以上，3群は100以上120未満，4群は100未満，5群は80未満となっている。1群は越山会支配度が最も高いグループ。2，3，4群と次第に支配度は低くなり，5群は越山会支配度が相対的に弱いグループとなっている。

【首長の色分け基準】

◎…市町村，地区越山会長を兼任（経験者，副会長を含む）。

○…現在，市町村越山会の顧問，会員。総選挙では田中元首相を重点支援する。

△…総選挙では田中元首相だけでなく保守他派も支援。

×…他派後援会の役員経験者。あるいは総選挙では田中元首相以外に重点を置く。または革新系も支援する。（新潟日報社調べ）

「新潟日報」（中越版），昭和62年7月22日付。

さて、3区の保守系代議士は、田中角栄（無所属）、村山達雄（自民、宮沢派）、渡辺秀央（自民、中曽根派）、桜井新（自民、安倍派）の4人である。田中角栄は越山会、村山達雄は山紫会、渡辺秀央は秀央会、桜井新は一新会という地元後援会をそれぞれもっている。

田中角栄・越山会は県議8人、村山達雄・山紫会は1人、渡辺秀央・秀央会は2人、桜井新・一新会は1人を系列化している。前回（昭和48年4月）と比べて、田中・越山会は5人減少させ、桜井・一新会は始めて系列県議をもったことになる。

第8表 新潟3区保守系代議士による県会議員の系列化

代議士名	県議名	選挙区、当選回数	得票数	落選者
田 中 角 栄	高橋虎夫	(北魚⑧)	21,218	▲嵐嘉明(三条) 12,248 ▲西川勉(柏崎) 16,587 ▲菊田征治(加茂) 9,668 ▲五十嵐淑郎(三島) 15,062 齊藤隆景(南魚) 13,792
	星野伊佐夫	(長岡・古志④)	22,484	
	広井忠男	(小千谷④)	13,528	
	馬場潤一郎	(栃尾④)	13,666	
	三富佳一	(刈羽③)	12,779	
	東山英機	(柏崎②)	16,986	
	大塩満雄	(見附①)	12,898	
	佐藤元彦	(南蒲①)	16,591	
村山達雄	細貝幸也	(長岡・古志④)	14,048	
渡辺秀央	滝口恵介	(三条②)	13,288	▲上原仁(長岡・古志) 13,002 ▲角屋久次(北魚) 14,035
	亘太郎	(三島②)	18,649	
桜井新	種村芳正	(南魚①)	17,630	
無系列				▲今井良松(見附) 11,921

(注) ▲印は現職であったことを示す。今井良松は現職時は越山会であった。
新潟日報社、『データ'87選挙』、昭和62年、p. 7.

今回（昭和62年4月）の県議選において、自民党は公認・推薦の現有48議席を36議席に減らし（25%減）、社会党は現有9議席を18議席に倍増させた。公明党、民社党、共産党はそれぞれ改選前、新議席1で変化がないし、また県政会も2議席で変化がない。この状況のなかで、田中角栄・越山会の13議席から8議席への激減（38.5%減）は顕著である。5議席の減少は加茂市、三条市、三島郡、柏崎市、南魚沼郡である。

この越山会の大量落選の要因は、越山会にとって外部的要因と内部的要因に分けることができる。まず、外部的要因には、今回の選挙で最大の争点となった売上税問題、社会党の追いあげ、公共投資の減少、若手代議士の抬頭、定数2の減少等々があげられる。つぎに、内部的要因のなかの最たる支配的要因は田中角栄元首相の病氣不在による、組織の凝集性の減少である。越山会の人的運営、経済的運営がスムーズに機能していない。立候補予定者の選出時のトラブル（南魚沼郡）、現・元越山会役員の同時立候補と、除名された元越山会立候補者に対する他の保守系陣営の接近（見附市）などがそのままの形で選挙戦に持ち込まれることは、越山会組織の弱体化のあらわれである。

また、資金難も容易に考えられる。田中ファミリー企業→目白→中央政界あるいは新潟3区への資金の流れが円滑に行くのは、田中元首相の強大な政治力が背景にあってこそのものである。新潟越山会は集票機関でこそあれ、集金能力はない。したがって、今後資金難がそのまま3区越山会の勢力の衰退に結び付くことが予想される。

現在その動きがあるようにいづれ、越山会市長や県議が田中後継を名乗って衆院に出てくるであろうし、また3区の主導者を目指す2人の若手現代議士の動きによって、県議の系列化は近い将来大きく変わることが予想される。

今回（昭和62年4月）の統一地方選では、432議席をめぐって468人の候補者が争った。当選者のうち、党派が明らかな398人の系列はつぎの通りである。

第9表 市町村議党派別当選者

	議員数(%)	改選前増減	各市町村での増減、および議席
田中角栄系	179 (45.0)	-8	川口町-1, 長岡市・小出町・入広瀬村各-2, 堀之内町-3, 広神村-3, 湯ノ谷村+4。長岡市8, 堀之内町5, 小出町4
渡辺秀央系	53 (13.3)	+4	長岡市4, 堀之内町5
社会党系	45 (11.3)	-1	長岡市 9
桜井新系	44 (11.1)	+11	長岡市 5, 堀之内町 6, 長岡市 +2, 小出町 8, 刈羽村 +2
村山達雄系	39 (9.8)		長岡市 5
共産党系	19 (4.8)		長岡市 3
公明党系	10 (2.5)		長岡市 2
民社党系	9 (2.3)		長岡市 1
計	398 (100.0)		

「新潟日報」（中越版），昭和62年5月3日付，8月17日付から作成。

越山会は、改選前より8議席減らしたが、依然として、当選議員数の45%を占めている。しかし、小出町を除く全首長が越山会系の北魚沼郡で町村議の議席を減らしている。たとえば、川口町では越山会幹部を含む現職3人が落選して改選前に比べて1議席減っているし、広神村では3議席、小出町と入広瀬村ではそれぞれ2議席減らしている。北魚沼郡7町村における越山会の議席減少の要因は、桜井新・一新会の勢力伸長がある。因みに、同郡における越山会系議員は49人、一新会系議員は22人である。しかし、堀之内町にみられるように、双方の派閥が同数（5人）のばあいもみられる。

長岡市は、3区の中心であって、各派の勢力をいち早く反映するところである。ここでも越山会は10人が立候補し、2人が落選した。現有議席10から8へ後退した。同市における党派構成（定数35）は、社会党9人、村山達雄・山紫会、渡辺秀央・秀央会各4人、桜井新・一新会、共産党各3人、公明党2人、民社党1人である。

また、渡辺秀央の伸長している三区の北部の三条市、南蒲原郡下田村、田上町、三島郡寺泊

町でも越山会系議員の議席に占める割合は20%台になっている。

このようにみると、現在、地方議員の45%を系列化におく越山会も3区の南部からは桜井新・一新会によって、北部からは渡辺秀央・秀央会によって次第に蚕食されていることがわかる。

桜井新・一新会は、3区南部に勢力をもっている。特に、本拠地の南魚沼郡六日町では昨年（昭和61年7月6日）の衆参同日選（有権者数19,000、投票率89.96）において田中角栄5,165票に対して桜井新6,882票、また今年4月12日の県議選（有権者数19,909、投票率98.80）においても越山会直系の斉藤隆景4,754票に対して、一新会直系の種村芳正6,488票といったように、いずれも田中票を1,700票も上回っている。

このような状況のなかで、今年4月26日六日町長選が保革で戦われた（有権者19,853、投票率88.30）。結果は保守で現職の大谷欣一が自民党推薦、4代議士連合、町議会の%の保守系議員の支持を得て、町議6期社会党推薦の中条敏巳を破って、3選を果たした（大谷欣一9,797票、中条敏巳7,607票）。

大谷欣一町長自身は、越山会に対しても一新会に対しても等距離というが、一新会は越山会寄りだとみている。今回の町長選において、当選を確実にさせたのは一新会であった。投票日3日前に一新会町議団による独自の街頭PR、2日前からは桜井代議士が張り付いた。これらの一新会の活動は、大谷町長の越山会色を薄め、一新会の勢力を拡大するためのものである。今回、一新会が直系候補を出さなかった理由は保守同士の戦いで革新に座を取られる可能性があったからである。しかしいずれ、独自候補を立てることになる。

III むすび——地方議員の系列化パターン

これまでの具体的にして経験的な事実の記述から、地方議員の系列化のパターンを描いてみよう。そのばあい、図式化をしやすいするために、現実の争いを特化して、越山会、秀央会、一新会の三者で考えてみたい。

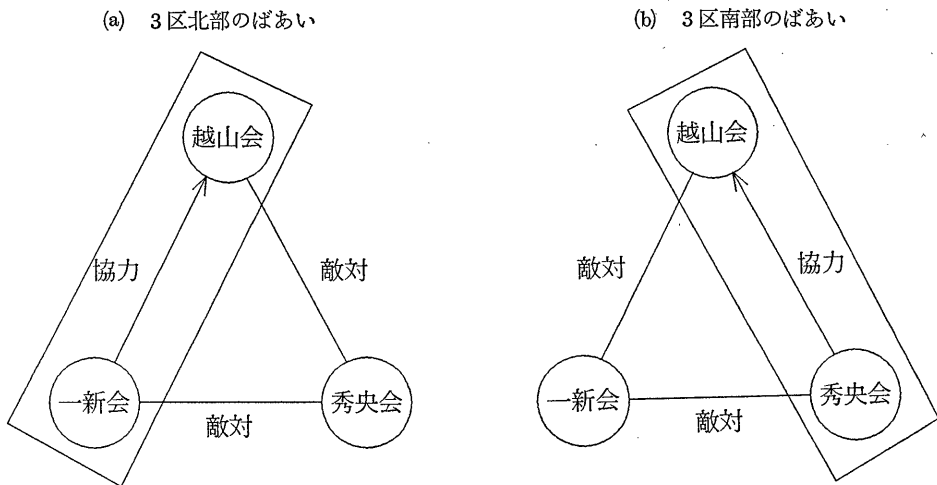
3区北部を地盤とする秀央会は、北部では越山会と対立し、3区全域でポスト田中の主導権を目指して一新会と戦っている。また、3区南部を地盤とする一新会は南部では越山会と対立し、3区全域でポスト田中の主導権を目指して秀央会と戦っている。したがって、秀央会は南部の一新会の地盤では越山会と協力し、一新会と敵対する（たとえば、県議選南魚沼選挙区）。逆に、一新会は北部の秀央会の地盤では越山会と協力し、秀央会と敵対する（たとえば、県議選見附選挙区）。秀央会と一新会とは互いにポスト田中の主導権を狙っているので協力することはない。

つまり、越山会の支配に対して秀央会と一新会とが一致してことにあたることはない。かって、G. ジンメルは上位者Aの圧政に対する下位者B、Cの対応の仕方に二つの型を示した。一つは上位者Aの圧政に対して下位者BとCが結合するばあいであり、二つは下位者BとCが

分離するばあいである。後者の例として17世紀イギリスの国教徒の支配によるカトリック教徒と長老会教徒の敵対、トルコ・イスラム教における異なった母親から生まれたひとつのハレムの子供の間の敵意を挙げている（G. ジンメル, 1908, 居安正訳, 1970, 『社会分化論 社会学』青木書店, pp. 243~244）。カトリック教徒と長老会教徒の間にある憎悪が、ひとつのハレムの子供たちの間にある嫉妬が下位者間に不統一をもたらしているという。しかしながら越山会支配に対して秀央会・渡辺秀央（55）と一新会桜井新（57）の間にあるのは憎悪、嫉妬よりも3区の新たな主導権という具体的な資源をめぐる闘争である。

これを図示するとつぎのようである。

第4図 系列化のパタン



現在、田中病氣不在の状況のなかで、越山会との距離をどのようにとるか最も悩んでいるのは各首長ではなかろうか。非越山会系の首長や越山会と自分を同一視している首長は問題がない。しかし、その他の首長は自らの選挙戦術上、あるいは地位の維持存続のために代議士派閥の系列に入り、また代議士は自らの集票力と地域支配力の増強のために首長を系列化する。この構図は県議や市町村議とまったく同じである。首長の多くは、一挙に越山会を離れることはなく、一旦中立を装い、他の保守系代議士と等距離を強調する。そして、つぎには所属派閥を決めることになる。あるいはもうその動きが出ているように、越山会以外の派閥が首長候補を立てる可能性もある。

〔本研究は佛教大学学会昭和61年度特別研究助成による成果の一部である〕

社会学部のあゆみ

略年譜

- 昭和42年 4月 社会学部設置 文学部社会福祉学科入学定員30人を社会学部社会福祉学科入学定員50人に移行 社会学科入学定員50人を開設
通信教育課程 文学部社会福祉学科入学定員300人を社会学部社会福祉学科入学定員500人に移行 社会学科入学定員500人を開設
- 昭和43年 4月 社会福祉学科入学定員100人に変更
- 昭和46年 4月 大学院社会学研究科社会福祉学専攻修士課程設置
- 昭和47年 4月 社会学科入学定員100人に変更
- 昭和48年 4月 大学院社会学研究科社会学専攻修士課程設置
- 昭和51年 4月 社会福祉学科入学定員120人に変更 社会学科入学定員180人に変更
- 昭和52年 4月 大学院社会学研究科社会学・社会福祉学専攻博士課程設置
通信教育課程 社会福祉学科入学定員1000人に変更
- 昭和59年 4月 社会福祉学科入学定員150人に変更 社会学科入学定員220人に変更
- 昭和61年 4月 社会福祉学科臨時入学定員200人に変更 社会学科臨時入学定員270人に変更

社会学部長

- 秦 隆真 昭和42年 4月～昭和46年 3月
- 久保田 治 昭和46年 4月～昭和48年 3月
- 三船祥二郎 昭和48年 4月～昭和54年 3月
- 上田 千秋 昭和54年 4月～昭和56年 3月
- 筆谷 稔 昭和56年 4月～昭和57年 5月
- 斉藤 政夫 昭和57年 9月～昭和60年 3月
- 森田 久男 昭和60年 4月～